



# 山赤子

クスノ  
キ陽菜



山の子を授かりました

この子は山へ  
かえして  
まいります

そう言い残し

山へと消えた女がいた



それ以来山では  
赤子の声が響いたが

その姿は決して  
見ることができず

やがて人々の間では





「山で赤子の声を追ってはならない」

そう語られるようになった。



薬イー

薬はいらんかねー



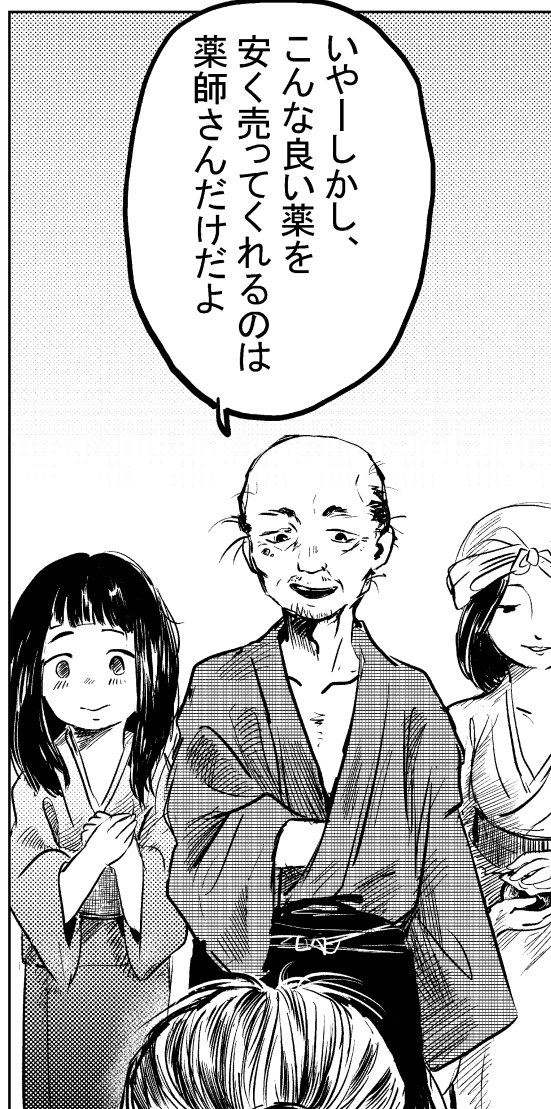
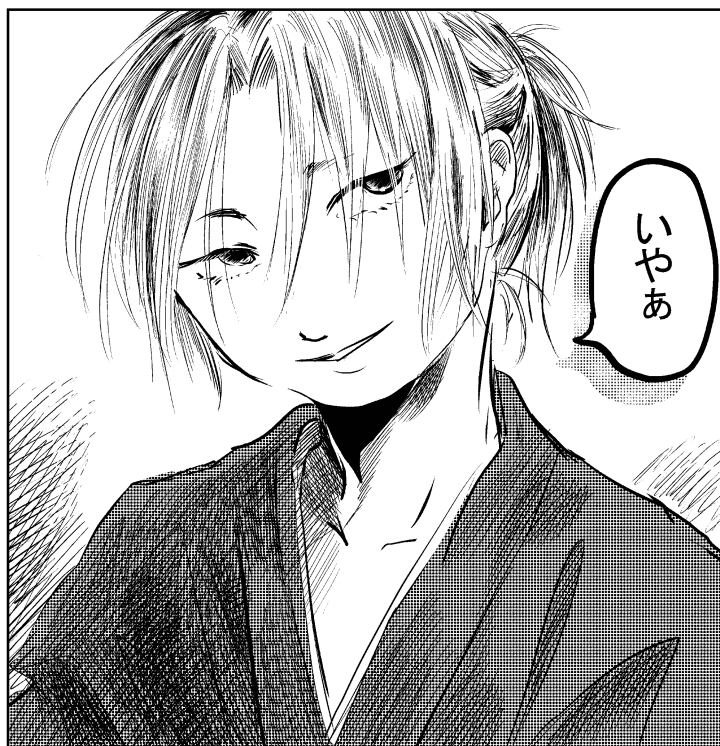
虫下し、  
咳止め、  
惚れ薬ー

椿油、  
入ってるよー

薬イー







なにも？







山赤子の  
髪をとぎ

山赤子が吐く  
実や葉や根を  
もらう。

吐くものの多くは  
薬となり

中には油の採れるもの、  
高値のつくものが  
混ざっている事もある。

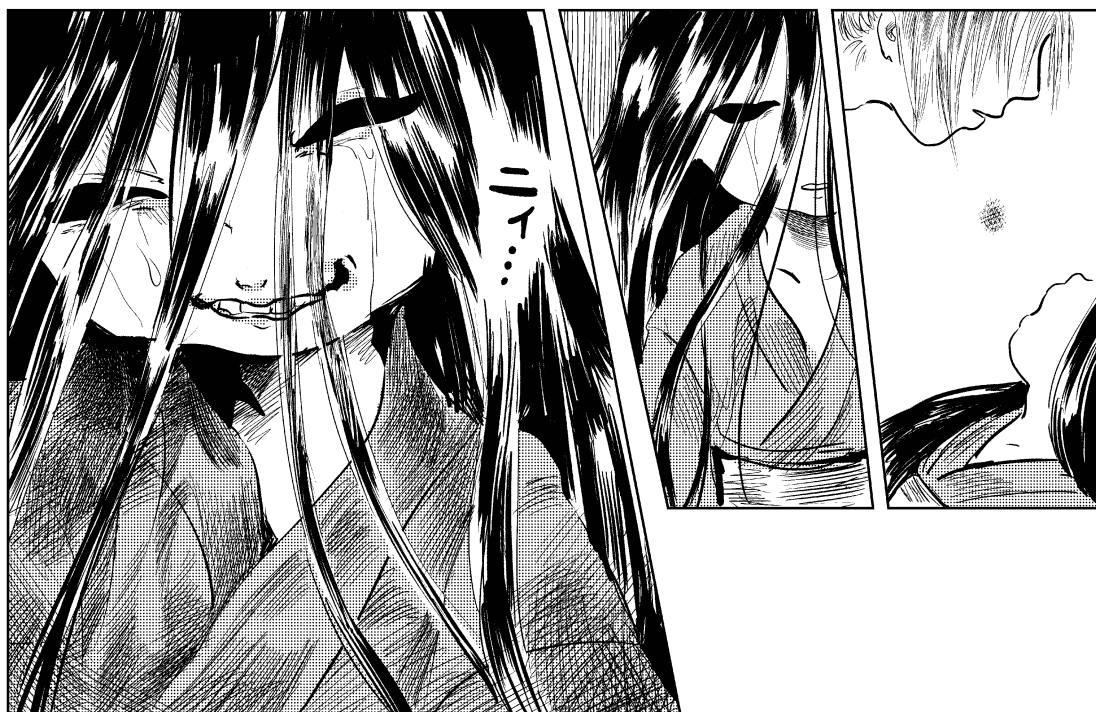
これが



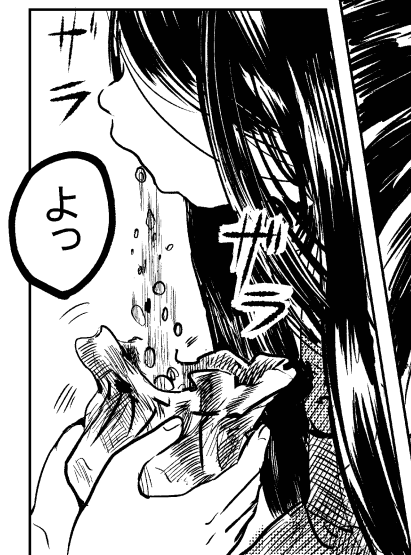



三百年続く薬屋の  
秘密だ。

—  
.....





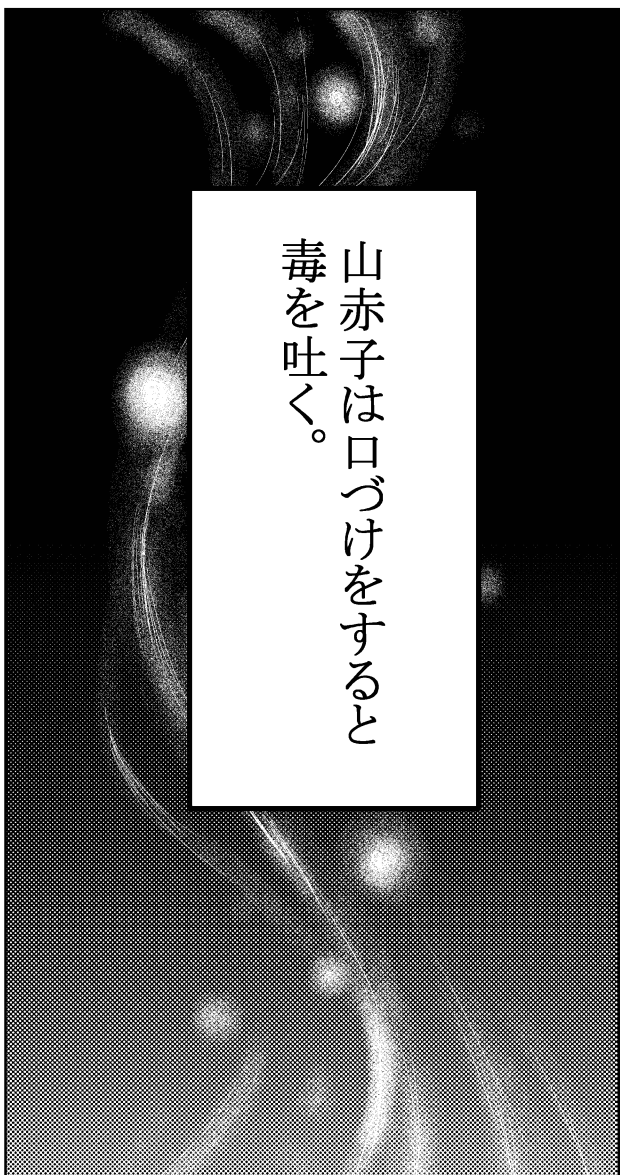




薬売りとして行く村では  
知られぬ顔がある。



ここへ直接  
訪ねてくる  
者は

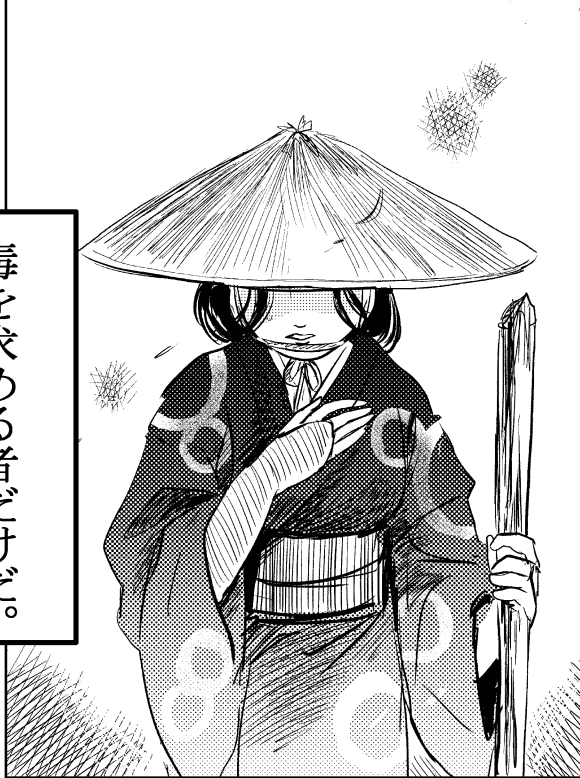


山赤子は口づけをすると  
毒を吐く。





毒を求める者だけだ。



墮胎薬を…



あの…

どうされました




毒売りは



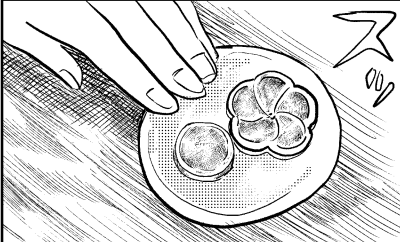
お疲れでしょう、  
どうぞ上がって  
お休みください

かしこまりました




その毒をどう  
使うのか

どんな事情が  
あるかなど  
聞いてはならない。



茶菓子でも  
どうぞ




あ…  
その…

ああ、  
失敬



食べませんよね

毒売りの出した  
ものなんて。

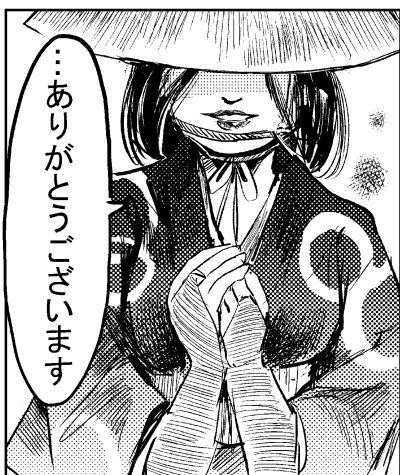


うちは十年前までは  
薬屋だったんですよ

あ、まア  
今でも表向きは  
そうなんですが。



ハイ  
堕胎薬。



…ありがとうございます



でも今は  
毒、毒、毒…

昔は薬で人を  
救ってたんですがねエ。



……

十年前  
——

フキ  
キア

フキ  
キア

フキ  
キア